

心配性の人は、まずはあり得ないことまで心配する。損な性分である。だが、そのおかげで命拾いすることもあるのだ。

40歳のK子さん。車の運転中、急に頭を右に向けたところ、右のうなじから後頭部にかけて強い痛みが走った。3、4日しても、同じ部位に痛みが残る。夫は、「ただの寝違えだろう」「などと、相手にしてくれない。

」でも、センス。この痛みは、前と違っていきなり起きたのよ。ピリピリする痛みでもない。くも膜下出血では？と、K子さんは真剣である。が、ちょっと待って。実は、彼女は、3カ月前にも、頭痛で大騒ぎをしている。その時のMRA（磁気共鳴血管画像）の検査で、出血するような脳動脈瘤や脳動静脈奇形などがないことは分かっているのだ。まずは、くも膜下出血ではないだろう。

だが、急に首を動かした後、片側のうなじから後頭部にかけていきなり痛くなったのなら、忘れてはならない病気がある。「椎骨動脈解離」である。椎骨動脈は、うなじの奥から後頭部に走る脳の動脈だ。

解離とは、その動脈の血管壁の一部が裂けた状態である。急いでMRAの検査をして

みると、右側の椎骨動脈の一部が細くなっているではないか。動脈解離の疑いが強い。

椎骨動脈解離の原因はよく分かっていない。が、首に急な負担がかかると起きやすい。動脈壁の解離が広がれば、血管が詰まって脳梗塞になる。外に膨れて、動脈壁が破ればくも膜下出血を起こすことになるのだ。

が、そんなコワイ話は、彼女にはストリートに話せまい。で、次のことだけを約束させた。首に負担のかかる運動をしないこと。頸椎を急激に回転・伸展させるような施術院などへは行かないこと。で、ここ何日も、首の動かないロボット状態が続くK子さん。だが、ま、仕方なかろう。

（石黒修三「いしへろクリニック・脳神経外科医」6/13北國新聞掲載）